

優秀賞
(子どもの部)

「心をこめて、大切に」

荒川区立尾久小学校三年

渡辺 夕鶴

柳田先生こんにちは。私は「おさがり」という絵本を読みました。

私にはお姉ちゃんがあります。だから、なんでもおさがりなんです。この絵本を読むまで「おさがり」は、いやなものと思っていました。なぜなら、なんでも買ってもらうお姉ちゃんと全部おさがりの私。私はすべて新しい物のお姉ちゃんがおきさきさまか、お姫さまに見えるからです。

この本に出てくる、なっちゃんも私と同じでし

た。本の中でうったえるなっちゃんの気持ちは私には、すごくわかりました。なっちゃんは、私と同じ、おさがりをいやだと思っていたのです。

ところが、この本の先生がおさがりの大切な思い出を話してくれます。先生にもお姉ちゃんがいる、お姉ちゃんが使っている定ぎを使えば、きれいな線が引けると思っていたみたいです。その定ぎをおさがりとしてもらって使ってみると、お姉ちゃんそばにいたい、とてもうれしいと、先生は話していました。

私はこの本を読んで、おさがりというものは、ただの古いものではなく、使っていた人のおもいがつまっているんだなと思いました。

そして、私がかよっている学校も、教室も、つくえやいすも、すべておさがりです。私が使っている

教室やつくえには、今まで使っていた人たちのどんなおもいや気もちがつまっているのかな…と思うと、これからは、つくえや教室もきれいにそうじて、大切に使いたいです。

柳田邦男先生からのメッセージ

きょうだいが二人とか三人いると、下の子は、着るものでも学習用具でも、上の子のおさがりを与えられることが多いですね。上の子はいつも新しいものを買ってもらえるのに、下の子は同じように新しいものがほしくても、親がもったいないからと、上の子が使ったものを与えるのですね。下の子は不満でも、がまんをさせられる。絵本『おさがり』は、そういう問題を取り上げた作品です。

渡辺さんも、お姉ちゃんがいて、あれもこれもお

さがりを与えられる。何でも買ってもらえるお姉ちゃんはおきさきさまかお姫さまに見え、おさがりをいやだと思っていたのですね。

でも、絵本『おさがり』を読んだところ、登場する先生が自分の子どもたちの話をする。おさがりの定ぎを使うと、お姉ちゃんがそばにいるように感じて、きれいな線が引けるようなうれしい気持ちになったという。

そこで渡辺さんは、だいじなことに気づいたのですね。おさがりのものは、ただ古いだけでなく、使っていた人の思いがつまっているものなのだと。そこから渡辺さんの思いは広がる。学校も教室も机や椅子も、使っていた人の思いや気もちがつまっているのだと思って、きれいにそうじをして、大切に使っていこうとまで考えるようになったので

すね。

このように本で気づいたことを、自分の生活や生き方に生かしていくという渡辺さんの心の持ち方は、これからも大切にしてください。